

(無断転載を禁ず)

かごしま検定～鹿児島観光・文化検定～  
第9回かごしまグランドマスター試験

(1. 解答例)

1つはフィリピン海プレートが琉球海溝から沈み込み、それによるひずみが解消される時におこる巨大地震で、津波を伴うことがある。おもに日向灘から琉球列島東方沖で発生する。2つ目は、内陸の浅いところで発生する内陸地震である。断層の活動に伴う地震で、県北部で発生した加久藤、吉松、えびの等の群発地震、県北西部地震、桜島大正噴火直後に起こった桜島地震などがある。3つ目として、鹿児島では活火山が多いことからマグマの活動に伴う火山性地震がある。(215字)

(2. 解答例)

南北朝時代、国内は北朝と南朝に分裂し、各地は動乱が続いた。薩隅両国では、北朝方に島津貞久、南朝方に肝付兼重らが中心となり、両派の激戦が繰り広げられた。劣勢の南朝は、後醍醐天皇の第九皇子である懐良親王を谷山城近くに招き、御所を設け、勢力の回復に努めた。一方、島津氏は今川了俊により一時守護職を解任されるなどの苦難を味わうが、東福寺城や清水城で拠点を固めつつ、反対勢力への支配を次第に固めていった。(197字)

(3. 解答例)

二人とも鹿児島市が生誕地である。鹿児島二中一七高を経て東大へ進んだ俳人篠原は、沖縄で英語教師のかたわら、季語にとらわれないいわゆる無季俳句へと傾倒した。代表作『しんしんと肺碧きまで海のため』の句碑が指宿市の長崎鼻にたっている。宮原は大正初期に小学校の教科書に採用された文部省唱歌『我は海の子』の作詞者である。詩のモチーフは、宮原が少年時代を過ごした鹿児島市の天保山海岸付近の情景であると伝えられている。(201字)

(4. 解答例)

種子島ではさとうきびや甘しょ、早期水稻を中心とした土地利用型農業、屋久島ではタンカン、ポンカン等の果樹栽培が盛んである。また、山菜や花木を主体とした特産物の生産やトビウオ、サバ、カツオ、キビナゴ等を対象とした多彩な漁業も営まれているほか、伝統工芸品としての屋久杉製品や種子鉄、

水産加工品、焼酎等の地場産業がある。さらに、屋久島の水は、名水百選に選ばれるとともに、屋久島電工の水力発電所や南日本酪農協同の「屋久島縄文水」販売など多方面で活用されている。(227字)

(5. 解答例)

[1] ①大浦 ②南さつま ③226 ④野間 ⑤黒瀬

[2] 百済の日羅が仏教布教のため坊津を訪れ、坊舎を建立したことが一乗院の始まりとされている。以来、1000年に渡り、坊津は、貿易が盛んに行われ、伊勢の安濃津、筑前の博多津とともに、日本三津の一つとしてうたわれ、遣唐使船の発着港として内外にその名が知られていた。また、かつては、密貿易の拠点ともなっており、港には密貿易時代の屋敷跡が残されている。江戸時代に幕令をうけて、薩摩藩が密貿易の取り締まりに乗り出したことから、坊津の貿易は衰退した。(216字)